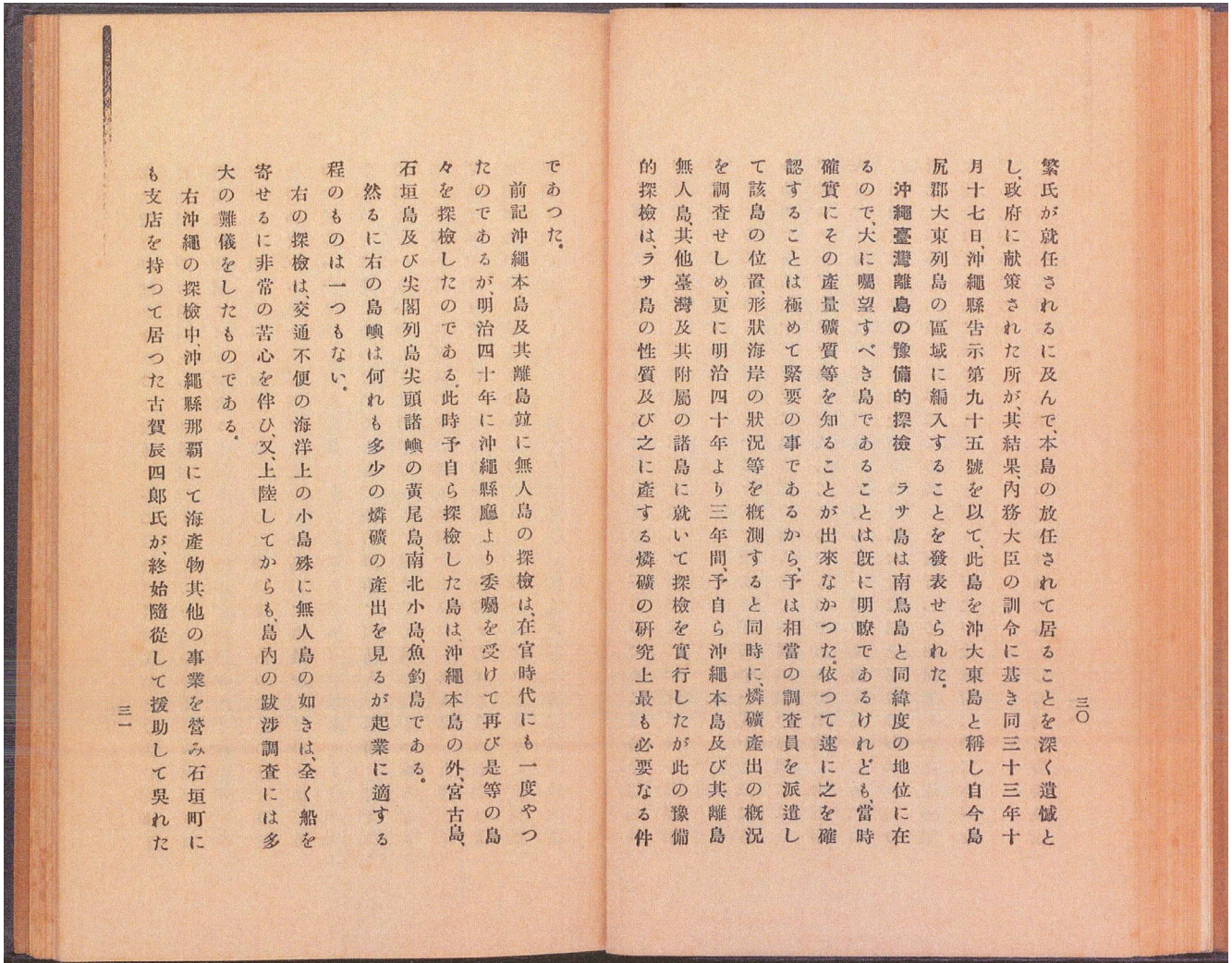


尖閣諸島におけるリン鉱調査の回顧録

No.38 予と燐鉱の探検

報H27/P14 1936年(昭和11年)



所蔵: 国立国会図書館(デジタルコレクション)

資料概要

明治維新後、日本最初の農学博士の一人で、農商務省地質調査所土性課長、同肥料鉱物調査所所長(初代)などを歴任した恒藤規隆による回顧録。沖縄県下の無人島(第二編第六章)として、久場島(第一節)、南小島、北小島(第二節)、魚釣島(第三節)について詳述している。

恒藤は、肥料原料となる燐鉱石の分布を探るべく日本全国を調査し、沖縄では尖閣諸島、波照間島等を調査、その結果について『南日本乃富源』を著し報告している。

1907年(明治40年)、沖縄県の委嘱を受け、恒藤一行が南小島の燐鉱資源を調査した際、同島の海鳥の剥製製作に使用する亜硫酸が溶け出した水を服毒してしまい人事不省に陥ったことや、尖閣諸島へ出稼ぎに出ている家族に会いに行くの様子などが記されている。

内容見本

●沖縄台湾離島の予備的探検

(略) 此時予自ら探検した島は、沖縄本島の外、宮古島、石垣島及び尖閣列島尖頭諸嶼の黄尾島、南北小島、魚釣島である。

作成年月日	1936年(昭和11年)
編著者	恒藤規隆
発行者	恒藤事務所
収録誌	-
言語	日本語
媒体種別	紙
公開有無	有
所蔵機関	国立国会図書館
利用方法	国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧を行う